

地域活性化プロジェクト

「JR飯山線のリニューアルによる地域活性化戦略」

新潟経済同友会十日町懇談会

「JR飯山線のリニューアルによる地域活性化戦略」の概要

＜事業の目的＞

■ JR飯山線を全面改修(冬期に強く、スピードアップと本数増)し、上越新幹線越後湯沢駅と十日町駅、そして北陸新幹線飯山駅を結ぶ大動脈とする。

■ また、いわゆる「北陸新幹線の金沢延伸における新潟県の2014年問題」の解決策の1つとして、ほくほく線の利用促進を図るとともに、十日町、津南地域のみならず、飯山・湯沢・六日町地域の活性化を目的とする。

＜背景＞

■ 十日町地域は、本県の中では、首都圏や中部に最も近い県の中心に位置するにも関わらず、長野間、長岡間の鉄道アクセスに恵まれないため、その拠点性が活かせていない。

■ 2014年度に北陸新幹線が金沢まで延伸し、長野県には地域活性化のために飯山駅に新幹線の新駅が整備され、金沢方面からの大幅な時間短縮となる。十日町としては、北陸新幹線を地域活性化のために活用したいが、現在の飯山線では長野、長岡との効果的なアクセスが難しい。

＜提言＞

- ・ 十日町市は、北陸新幹線の金沢延伸により北陸との交通アクセス機能が低下するとともに、ほくほく線の機能低下により、上越新幹線を利用した関東地域からの観光客の減少が懸念される。このため、十日町市は、湯沢町、魚沼地域、津南町、長野県飯山地域と連携し、官民が一体となって広域観光による観光客誘致を図ることが求められる。JR東日本は、信濃川の水利権再取得を見すえ、地域との共生策として飯山線のイベント列車・臨時列車の運行を実施しているものの、広域的な通年観光に耐えられる路線としては抜本的な改善が必要である。
- ・ 当懇談会は、北陸地域と津南・十日町・魚沼地域間の交通アクセス、長野・飯山～十日町～長岡区間の利便性を向上するための飯山線のリニューアルをJR東日本に是非とも要望したい。
- ・ 具体的には、夏季の大雨災害、冬季の大雪にも対応できるよう、飯山線の必要区間のトンネル整備を進めるとともに、高速化に向けた全線電化とそれに伴う軌道、駅施設・設備などの全面改修により、長野・飯山～十日町～長岡区間の鉄道の高速化と本数の増加を実現するよう、JR東日本に対して要望されることを十日町市関口市長に対し、提言いたしたい。

1. 十日町地域活性化への思い

<十日町地域の現状>

- 十日町地域は、県内においては、首都圏や長野・名古屋など中部地方から最も近いという地の利に恵まれているにも関わらず、沿線住民の生活の足である飯山線は非電化(ディーゼル)のため低速であり、1日の運行数も少ないことから、十日町市の拠点性の向上に活かしきれないでいる。
- また、トンネルや軌道等の基盤が未整備のため、冬期間の運休や運行時間の遅れなどが多く、県外からのアクセス手段として観光客の誘致には活用しきれていないのが実態である。
- こうした交通アクセスの不便さを解消するため長年の悲願であったほくほく線も2014年度末の北陸新幹線の金沢延伸により、運営会社の収益の9割を占めた特急の廃止が既成事実となっており、その後の利用客の確保が課題となっている。

1. 十日町地域活性化への思い

<十日町・湯沢・魚沼地域の活性化の課題>

- 北陸新幹線の金沢延伸を踏まえ北陸三県(福井・石川・富山)の強い連携が進むなか、既に長野新幹線が運行している長野市では北陸地域との観光面での競合を懸念する声も多く、長野県北信地域では新潟県との連携を模索する動きもある。このため、新潟県が長野・群馬と連携することで、それぞれの地域にある資源を活かし、広域観光地としての魅力を高めることが求められる。
- 当地域は、自然に恵まれ雪国という共通の特性のもと、それぞれの歴史と文化に根差したまつり・イベントのほか、スキーなどの冬季スポーツ・レジャー施設やそれぞれに特色のある温泉など、多くの観光資源に恵まれており、他地域にはない独自の雪国文化を生み出している。
- 越後湯沢、魚沼、南魚沼、十日町、津南、栄村、飯山、長野地域が観光資源を活かして広域観光を進めることにより、その魅力を高め、観光客の誘致を図ることにより、怒涛のような人の流れを創りたい。そのためには、上越新幹線、ほくほく線、北陸新幹線を結ぶ飯山線の機能を強化する必要がある。
- さらに、長野・飯山～十日町～長岡を結ぶ飯山線と接続路線を高速化し、運行数を増やして上越新幹線へのアクセスを向上することにより、新潟市までの高速移動が可能となる。新潟県に新たな縦断ルートを形成することにより、中部・長野からの入込客数の増加が見込まれるなど、その効果は新潟県に広く及ぶことが期待できる。

1. 十日町地域活性化への思い

<十日町・湯沢・魚沼地域の活性化戦略>

■十日町・湯沢・魚沼地域を活性化するためには、上越新幹線、ほくほく線、北陸新幹線を活用した交通ネットワークにより、関東・中部・北陸とのアクセスを向上させる必要がある。そのためには、飯山線の機能強化が前提条件となる。

<対応策>

■十日町市には、信濃川に建設されJR東日本が管理する企業私有の宮中ダムが建設されており、下流の千手・小千谷・新小千谷の三発電所の発電(計45万kW)によって首都圏の山手線・中央線などの運転に必要な電力の約2割を生み出している。

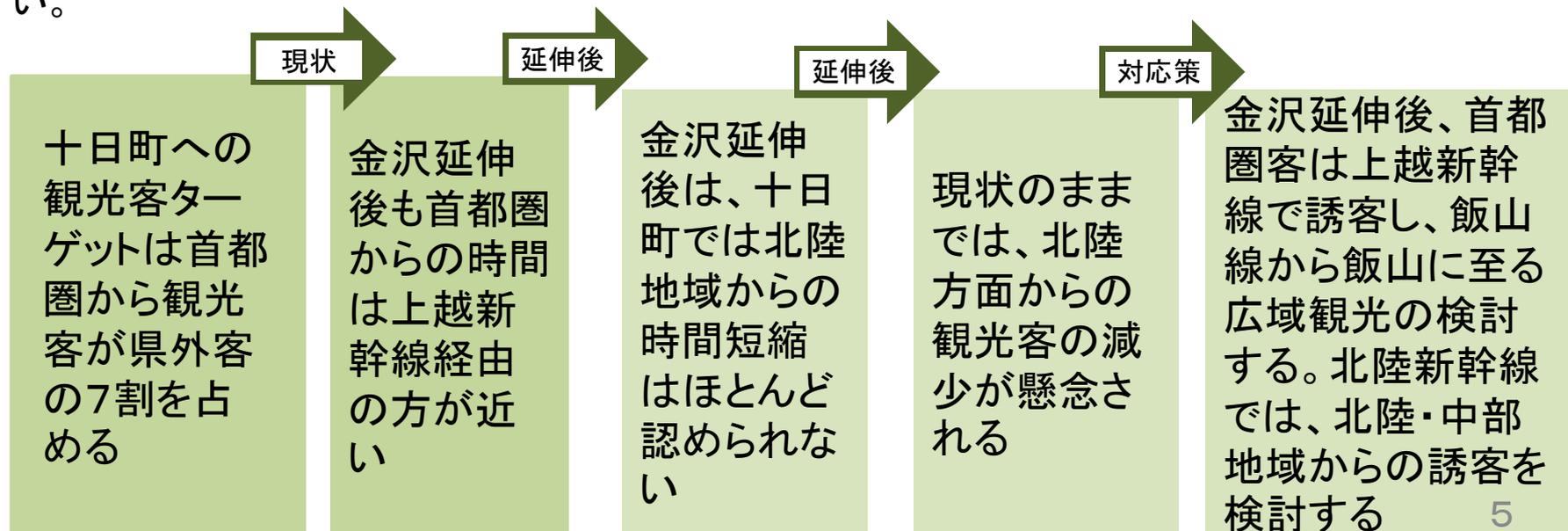
■十日町市は、JR東日本が水利権の再取得時に、JR東日本に対して飯山線・ほくほく線の活性化を要望書を提出している。

■これに対し、JR東日本は地域との共生策として飯山線のイベント列車・臨時列車の運行などを実施しているが、広域的な通年観光に耐えられる路線としては抜本的な飯山線の軌道・付帯施設・設備の改修が必要である。

■このため、JR東日本との信濃川試験取水による水利権の更新時期が来年2015年に到来する今こそ、飯山線の運営会社であるJR東日本と交渉し、飯山線のトンネル整備や、高速化に向けた全線電化とそれに伴う軌道、駅施設・設備などの全面改修を進めるように同社に働きかけることを十日町市長に提言することとした。

2. 北陸新幹線の金沢延伸と十日町地域の地域活性化戦略(まとめ)

- 北陸新幹線の金沢延伸により、飯山が最も時間短縮効果があるのは、富山・金沢間である。
一方、十日町にとっては、北陸新幹線の金沢延伸により、北陸方面のほくほく線の乗客が北陸新幹線に代替されて減少することから、十日町ー金沢間で約2時間20分の特急はくたかが廃止された場合、十日町ー北陸間の利便性は大きく低下する。このため、十日町地域は、北陸新幹線の活用により今後増加が見込まれる中部・北陸方面からの観光客誘致を検討する必要がある。
- 首都圏からは、上越新幹線利用により、湯沢・六日町・十日町方面に入り、飯山線で津南、飯山、長野を經由して北陸新幹線で首都圏に戻る雪国観光圏(魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、群馬県みなかみ、長野県栄村)での広域観光ルートを検討する必要がある。
- 具体的には、金沢～飯山～十日町の時間距離、東京～越後湯沢～十日町～津南～飯山～長野～東京の時間距離を短縮する必要がある。
- そのためには、飯山線の機能強化(運行本数の増加、スピードアップ)によって飯山線と接続路線の乗り入れにより長野・飯山～十日町～長岡区間の利便性を高めることを当会として強く要望したい。



3. 北陸新幹線の金沢延伸と十日町地域の地域活性化戦略(雪国観光圏の活用)

- 湯沢・六日町地域は温泉・スキー、トレッキングや自然観察などの通年観光十日町地域はきもの文化と雪まつり、大地の芸術祭による国際的イベント
- 津南地域は温泉・スキーと自然景観、飯山(長野県)は温泉・スキー、寺町 など
- 雪国観光圏の市町村それぞれにある特色ある観光資源を活かした着地型観光商品のメニュー開発により、付加価値の高い観光商品を提供できる広域観光を進める。



十日町市長 関口 芳史 殿

下記新潟県経済同友会十日町懇談会において、以上の提案を十日町市に提言いたします。

新潟経済同友会十日町懇談会
平成25年7月26日

副代表幹事	村山 政文	(株)村山土建	代表取締役社長
会員	太田 久美	(株)ハピネス	代表取締役
会員	尾身 幸雄	(株)恒樹園新潟	代表取締役
会員	小泉 裕	(株)当間高原リゾート	
		ホテルヴェルナティオ	代表取締役
会員	西方勝一郎	(株)根茂レース	代表取締役社長
会員	根津 公彰	根茂織物(株)	代表取締役
元副代表幹事 (懇談会顧問)	吉澤 慎一	吉澤織物(株)	代表取締役会長

<参考1> 「北陸新幹線の延伸」について

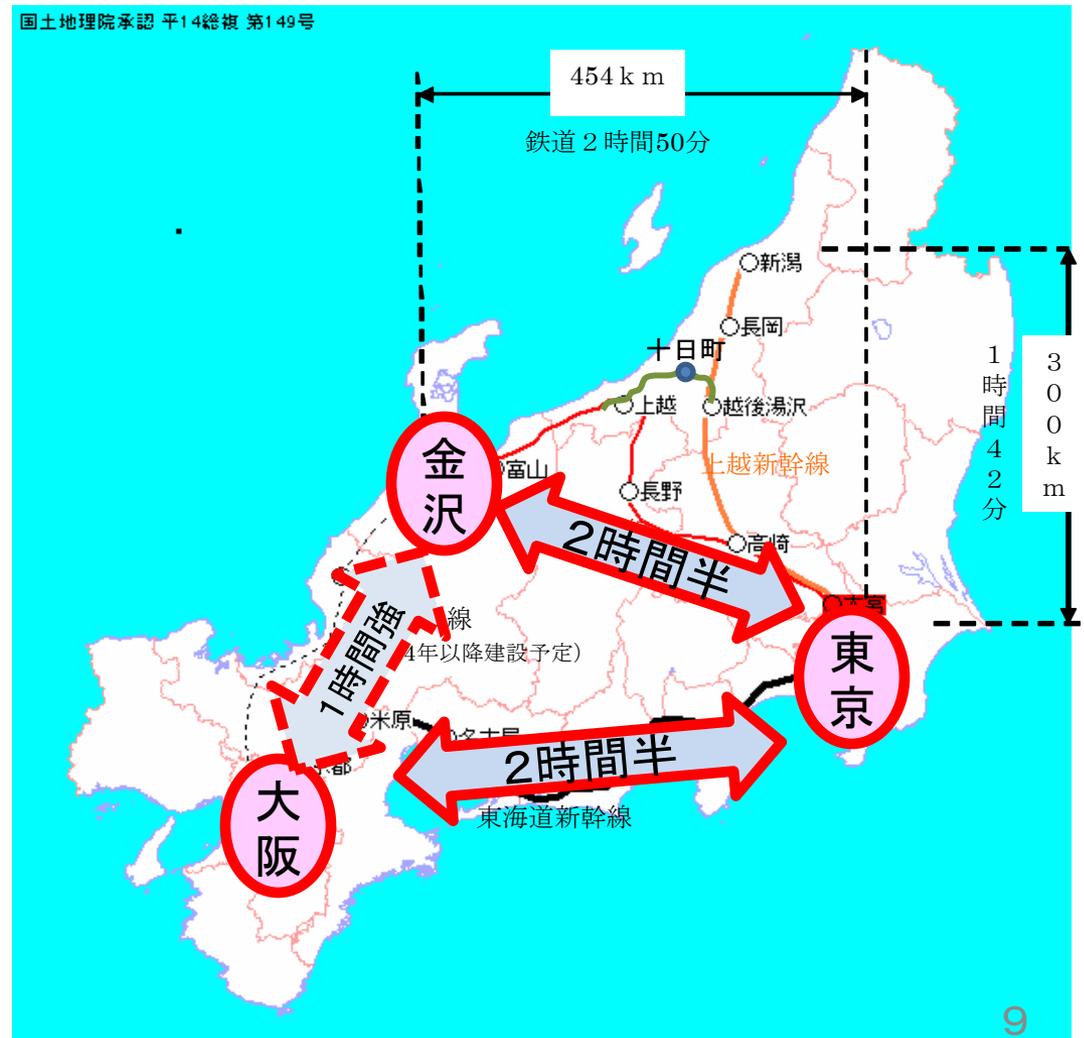
北陸新幹線の整備計画により東京～金沢～大阪(計画)をつなぐ新幹線による広域交通ネットワークが形成される

■北陸新幹線は、東京を起点として長野、上越、富山、金沢、福井等の主要都市を經由し、大阪に至る延長約700kmの路線計画である。このうち高崎・長野間は、1997年10月から長野新幹線として運行している。

■現在、東京～金沢間は東京発後、上越新幹線を利用して越後湯沢で乗り換え、ほくほく線の特急はくたかにより、富山・金沢に至るのが鉄道では最も早い。東京～金沢間は最短で約4時間である。

■これまで、首都圏～北陸間を鉄道で利用する場合、上越新幹線により越後湯沢乗り換え、金沢に向かう結節地点であるとともに、在来線の拠点駅として位置付けられてきた。

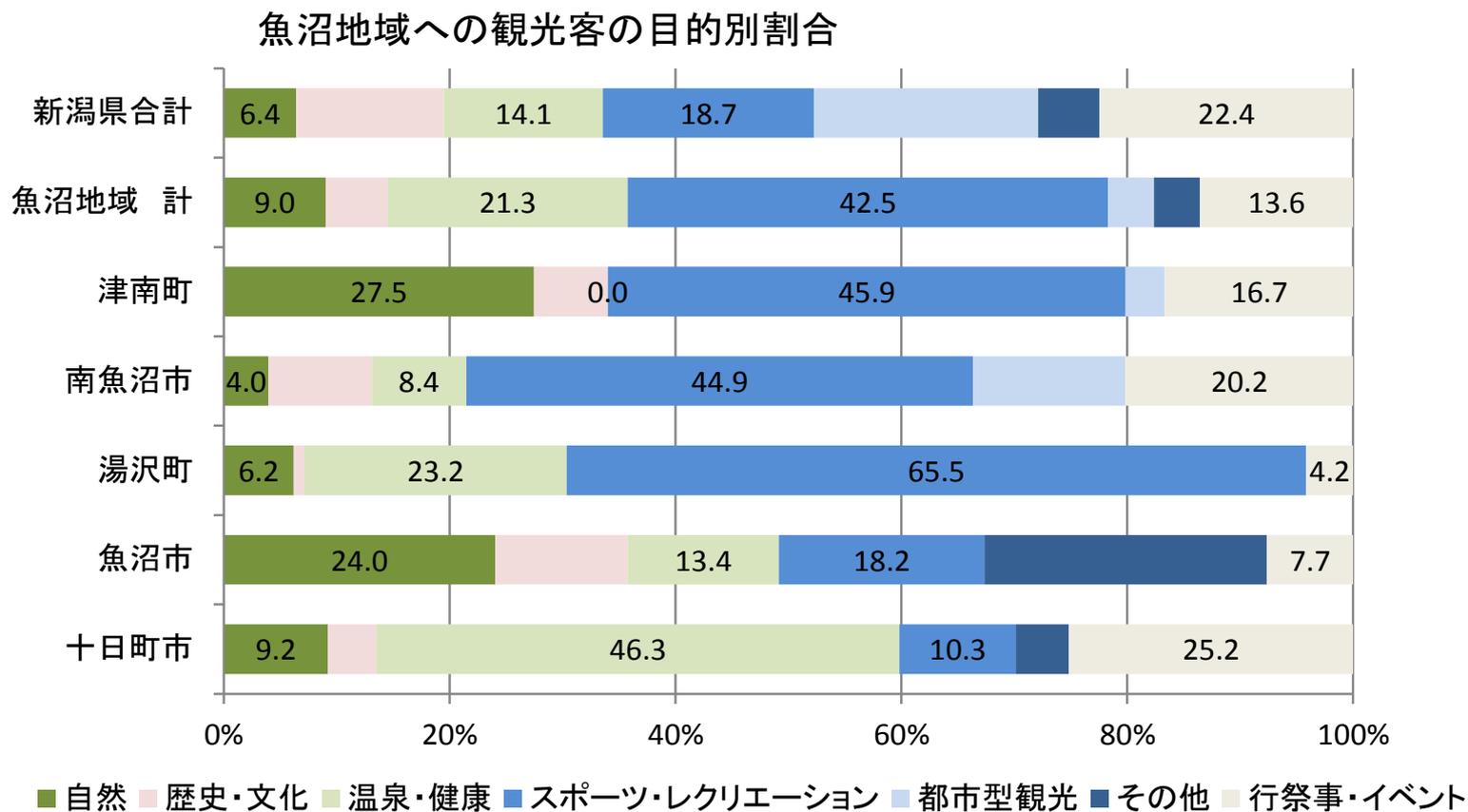
■今後、首都圏から北陸方面の移動客が上越新幹線から北陸新幹線にシフトすることから、特急はくたかの廃止、上越新幹線の利便性の低下など2014年問題として懸念されている。



<参考2> 魚沼地域への観光客の入込状況 ①観光客の目的

■ 魚沼地域の観光客の観光目的では「スポーツ・レクリエーション」「温泉・健康」「自然」を目的とする観光客の割合が新潟県合計よりも高い。

■ 十日町市の観光客の観光目的では「温泉・健康」「行祭事・イベント」「自然」を目的とする観光客の割合が新潟県合計よりも高い。

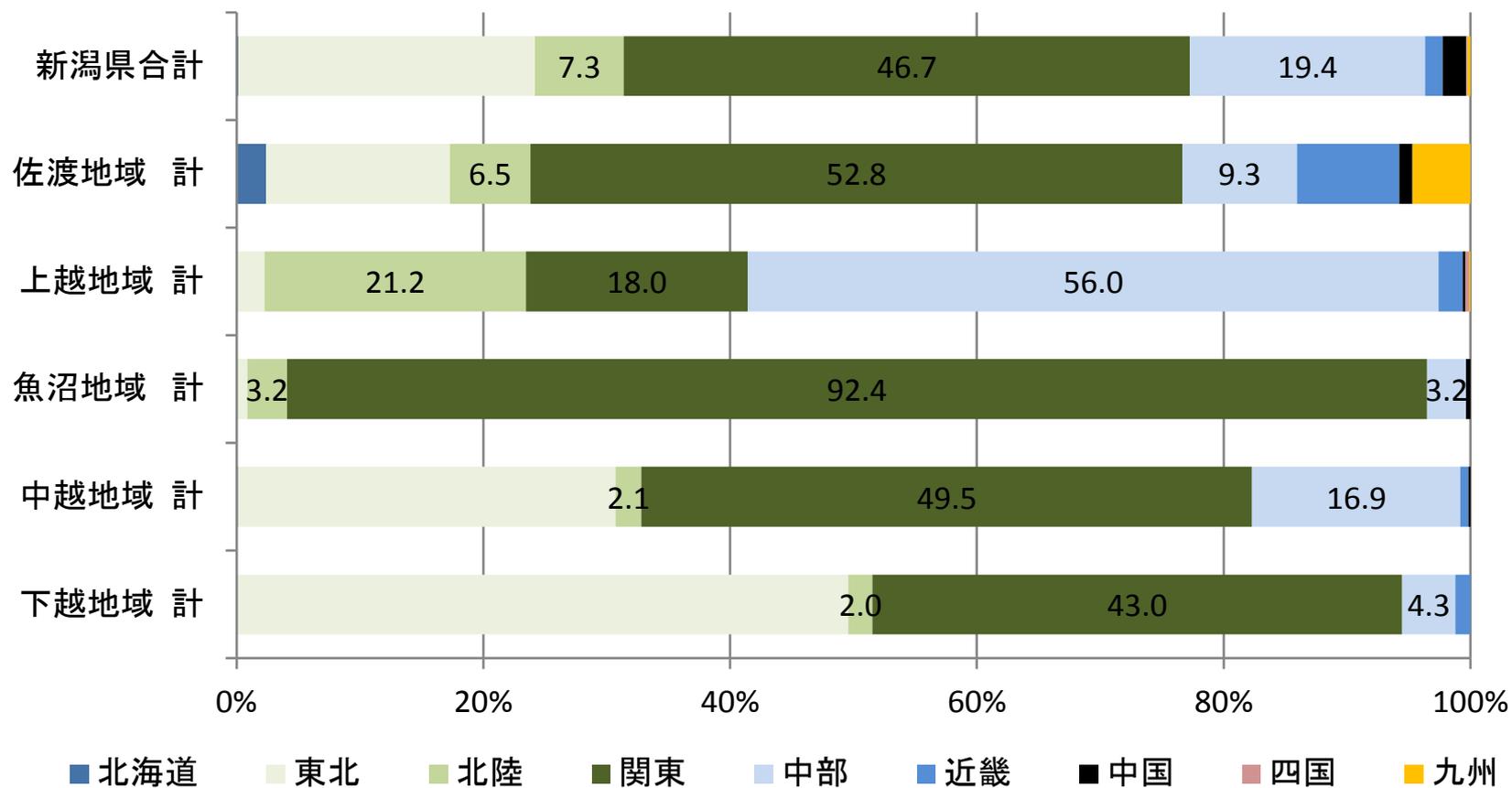


(資料)新潟県「平成23年観光入込客統計」

<参考3> 魚沼地域への観光客の入込状況 ② 出発地別観光客

■ 魚沼地域の県外観光客の出発地別の割合は「関東」が9割で最も高く、「北陸」「中部」を合わせて1割弱となっている。

地域別の観光客の出発地別割合



(資料)新潟県「平成23年観光入込客統計」

<参考4> 北陸新幹線の金沢延伸で十日町市の観光戦略

- 十日町市は、飯山線による北陸新幹線とのアクセス向上により、金沢までの最短時間を確保することによって、今後増加が見込まれる中部・北陸方面からの観光客誘致を検討する必要がある。
- また十日町市は、関東地域からの時間短縮によって大きく競争力を増す北陸地域に対して、魚沼地域の観光客の約9割を占める関東からの観光客の誘致にこれまで以上に注力する必要がある。



<参考5> 北陸新幹線の金沢延伸で十日町市の観光戦略

- 観光戦略としては、**上信越の広域連携**(群馬～新潟～長野)によって**雪国観光圏**の各地を鉄道で巡る観光ルートの開発が喫緊の課題である。
- 北陸新幹線によって利便性の向上することで観光客の増加が見込まれる北陸地域との差別化を図るためには、**雪国観光圏**のコンセプトを活用した新たな観光客の創造を進めたい。
- そのためには、飯山線のリニューアルと本数の増加など全面改修により飯山線の機能性を高め、首都圏と雪国観光圏の周遊を可能とする交通アクセスを改善することが強く望まれる。

